

1. 建物概要

建物名称	新県立中央図書館	BEE	3.7	BEEランク	S	★★★★★
------	----------	-----	-----	--------	---	-------

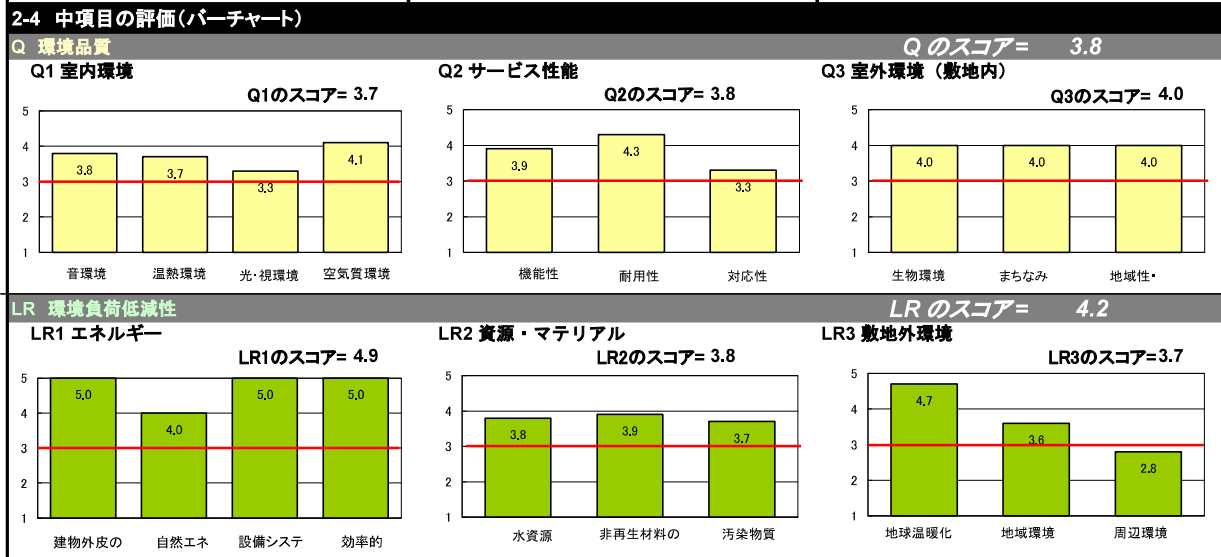
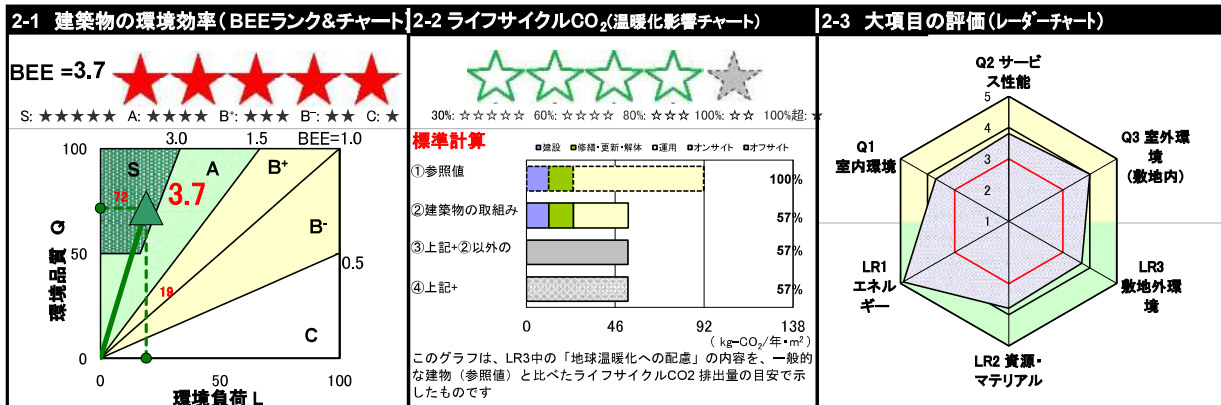
2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	4.6 /5		よい 
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	4.3 /5		よい 
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.8 /5		ふつう 
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	4.4 /5		よい 
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上 	ふつう 3 点以上 
			がんばろう 3 点未満 

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目	
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		得点	4.6
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①LOW-Eガラスを採用している。 ②昼光利用設備なし ③ロールスクリーンによりグレアを制御する計画とする ④20年程度の部材を多数採用 ④11年以上の部材を多数採用	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	外皮性能 昼光利用設備 昼光制御 躯体材料の耐用年数 外壁仕上げ材の補修必要間隔 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 空調換気ダクトの更新必要間隔 空調・給排水配管の更新必要間隔 主要設備機器の更新必要間隔
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外構緑地指数20%以上を確保。 ⑥積極的な緑化と保水性の高い舗装の採用。	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率運用) ⑦高断熱化、Low-eガラスの全面採用 ⑧自然通風、ハイサイドライトによる自然エネルギーの利用。 ⑨LED照明、モジュールチラー等の高効率設備機器の全面採用 ⑩中央監視による各種エネルギー計装、クラウドBEMSの導入によるエネルギー管理。	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水型衛生器具の全面採用、雨水利用設備の導入による水資源の有効活用 ⑫地下躯体部分における高炉セメントの採用。 ⑬不活性ガス(N2)消火設備の導入、オゾン層破壊係数ゼロ冷媒(R32,R410A)の採用	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 2 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭削減率50%以上の省エネルギー対策によるCO2排出量の低減 ⑮地表面および屋根面への積極的な緑化	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)		得点	4.3
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯免震構造・制震構造の併用 ⑰設備機器への防振架台設置、非常用発電設備の設置、電源・通信設備の浸水対策	Q-2 2 2.1 2.1.1 2.1.2 2.4 2.4.1 2.4.2 2.4.3 2.4.4 2.4.5	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)		得点	3.8
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱移動円滑化基準(最低限のレベル)を満たしている。 ⑲2.7m以上の天井高で計画 自由度の高い平面計画とした ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑バルコニーにより感覚的な距離感を保つ中間領域を形成	Q-2 1 1.1 1.1.3 3 3.1 3.1.1 3.1.2 Q-3 3 3.1	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
	“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)		得点
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外構緑地指数20%以上を確保した。 ⑥積極的な緑化と、燃焼設備を用いない設備計画	Q-3 1 2 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑫静岡県産材の使用比率が100%。 ⑮地表面の被覆材に緑化や保水性仕上げを採用。CFD解析による風環境への影響検討。	LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新県立中央図書館	階数	地上10F
建設地	静岡県静岡市駿河区東静岡2丁目	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	4,270 人
地域区分	7地域	年間使用時間	4,680 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年3月 予定	評価の実施日	2025年3月6日
敷地面積	11,187 m ²	作成者	CAT+AA+NS JV
建築面積	4,831 m ²	確認日	
延床面積	20,956 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項	
総合	その他
新しい図書館と従来の図書館を積層した独創的な建築計画に、効率的な設備計画、テラス・外構のランドスケープ計画を組み合わせ、環境性能の高い建築を実現している。 BELSのZEB Readyも取得しており、10,000m ² 超の図書館では全国で2番目の実績となる。 これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。	
Q1 室内環境 建築: 建物の形状を生かした、換気の方法を利用している。 電気: 閲覧室の照度は書架照明やタスクライトが無い箇所でも平均300lx以上としている	Q2 サービス性能 建築: 汎用性の高い内装材を利用している。 電気: 受変電設備、非常用発電機、サーバー室、MDF室等を浸水の恐れが無い場所に配置している 機械: 汎用性の高い材料の選定、中央監視による全館の遠
LR1 エネルギー Low-eガラス、高断熱、庇効果による日射遮蔽等の建築的手法に加え、高効率な設備機器を全面的に採用し、BELS認証のZEB Ready(標準入力法)を取得している。	LR2 資源・マテリアル 建築: 木材利用において、計画の初期段階から地域組合と調整をおこない、無駄の少ない木材利用計画とするように努めている。 電気: エコケーブルを使用(採点には含まれていない) 機械: ノンフロン系消火剤、冷媒を選定
Q3 室外環境(敷地内) 駅との連続性を考慮した計画としている。緑化を積極的に行い、建物周辺やテラスに人々の憩える空間を創出している。また、旧東海道上に位置する歴史性にも配慮した計画としている。	LR3 敷地外環境 建築: 周囲の広場との関係を考慮して外構を計画している 電気: 照明デザイナーが参画して外構照明を計画している 機械: 屋外機器に消音器を設置し、敷地境界上の騒音値を基準値以下に低減

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される